

## 平成26年度第1回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会会議録

◇日時：平成26年7月2日（月）9時30分～

◇会場：花川南コミュニティーセンター

◇出席：松島肇（会長）、安田秀子（副会長）、伊井義人、荒井一洋、内藤華子、石山優子、  
原田京子、北條静香、  
事務局：本間博人（センター長）、宮原和智（主査）、藤彰矩（主事）

◇傍聴者：1名

◇議 題

1. 平成26年度事業について
2. 石狩浜ハマナス再生プロジェクトについて
3. その他

◇議 事

### 1. 平成26年度事業について

【事務局】 （資料1説明）

【松 島】

資料1、平成26年度事業計画について何かご質問がありましたらお願いいたします。

【安 田】

HP更新についてですが、自然情報等含め更新頻度を高めて頂きたい。

【内 藤】

HPの骨格は在籍中に作成し更新していましたが、非常に手間がかかるため問題に思いつつ、ブログ形式への置き換えなどを検討していた中、退職後少しずつ変えていただいています。石狩浜を中心に活動する市民のHPもリンクを上手にかけて、ポータル的なHPとしていければとてもいいかと思えます。

【本 間】

現在、センターのHPはホームページビルダーを使用し作成していますが、現在他のソフトを使用したHPの再構築をすすめており、より発信しやすいよう改めているところですので、順次進めていきたいと思えます。

【安 田】

今の時代まずはHPを参照にしたいと思いますので、進めて頂きたいです。

【荒 井】

HPの更新を含め、情報発信はとても難しいです。

私たちも現在、旭岳の高山植物情報を発信していますが、ルーティーンを保つのが本当に大変になっています。

書いている内容も花の名前が変わる程度ですが、とても大変で、フォームを固定して発信することから始めています。内容もとても簡素化して発信するようにしています。

【安田】

フォトレターを今年から発信していますが、市外含め発信先はどうしているのか。

【藤】

現在は、そのつどボランティアさんにご協力を頂きながら、市内各所、市外等へ配布しているところです。ルーティーン化しているかと言われれば、まだそこまでのシステムは確立できていないのが現状です。

【内藤】

石狩浜の情報をより広く発信するために札幌市に送りたいが、受けて側で、札幌市は札幌市の情報しか置かないという状況があります。現在、通常の通信はまぼうふうを送る時は伺いをたてて送っています。印刷物がかなり溢れていると思われ、それに制限をかけているのだと思います。ただ、そこができれば配布先のルーティーン化も可能であると思います。

【安田】

配布先のルーティーン化を早めにやっていただければ、ファンクラブのメンバーで手分けして配布できると思いますので、進めて頂きたい。

【松島】

ルーティーン化は今回の配布先の事だけでなくとても重要なことで、内藤さんが退職され、市の人員が少ない中でどう保護センター業務をルーティーン化していくかは、ファンクラブを含め外部と連携を含めた形で話をしていく必要があると思います。もう一点、カントリーコードの配布の日程はいつになっていますか。

【藤】

7月26日（土）と8月9日（土）になっています。

【松島】

他にないようなので次に行きたいと思います。

【安田】

浜塾の方は今年どうなっていますか。

【原田】

私は今年受講させて頂いておりましたが、講座を修了し認定書を頂いた後、野外での案内などはどのくらい需要があるのでしょうか。

【藤】

石狩浜の自然散策をしていますと、観光客含め色々な方から声をかけられます。その際、認定書等を見せるとともに浜の案内をして頂く形になります。

【内藤】

今までの自然案内人の方には、保護センターでのクラフトやジャム作り教室などの運営を手伝って頂いたりしてましたが、今回は、保護センターの館内案内含め石狩浜全域の案内ができるようになるようになって頂きたいと思います。

【本間】

センターの中では出前講座等の依頼が多くあり、現在は藤が講師として出ていますが、自然案内人の方にも講師をお願いし、参加者に解説して頂くなど拡がりが増えてくることは良いことで、このような人材育成プログラムというのはとても重要だと思っています。

【伊井】

自然塾に関してですが、自然という知識だけでなく、例えば話すぎないと言ったような、案内人としてのスキルを磨く内容も行っているのでしょうか。

【石山】

入っています。

【松島】

纏めますと、今までの自然案内人は、保護センター内での解説やイベントの補助をメインに行ってきましたが、今後はこれを拡げ、はまなすの丘の解説や、出前講座等などでも活躍していけるようにしていきたい、ということでしょうか。

【安田】

保護センターができたころは、外の観察も行っており、それができる人ということでやってきましたが、だんだん外に出るイベントが無くなり、保護センター内でできるイベントが多くなっていますが、元々からそのような人材育成を目指して動いていたことを付け加えておきます。

【松島】

では次に議題2のハマナス再生プロジェクトについて事務局から説明をお願いいたします。

## 2. 石狩浜ハマナス再生プロジェクトについて

【事務局】

資料2 説明

【松島】

ご質問等はございませんでしょうか。

【石山】

今年は虫が多く薬を散布したと思いますが、この場合は収穫量を上げなければならない場所なのか、そのために薬を散布しなければならないのか、使うとなればどんな薬を使用するのか。

【藤】

まず、今回薬を散布したのは、フェスティバルに際して来客者がドクガの被害にあわないよう散策路周辺のハマナスに散布しました。薬を使うかどうかということに関しては、今後検討していかなければならないことだと思います。

【内藤】

普及員さんから聞いていますが、花卉など食用に使う部分には散布せず、ドクガにピンポイントで散布していました。

【松島】

今の話を反映してですが、私が懸念していることは、薬も含め再生園の管理についてです。整備をしたが、今回の毛虫の話もそうですが、かなり労力のかかる作業になります。現実には、柵を作成したりして頂いているのは、保護センターの職員、ボランティアさんとほんの数人でやっています。今後いつまで頼れるのかというのが心配ですし、写真を見て頂くとお分かりでしょうが、去年整備した土地は、ハマナスだけでなく、ほかの雑草も生えてきており一年で元の姿になろうとしている、まだ手のついていない部分も含めどう管理していくかということを考えていかなければならないと思います。

保護センターとしては何かこのことに関して何かありますか。

【藤】

実のところ私も普及員さん、ボランティアさんにかかなりの負担を強いていることはとても心苦しいところであり、継続した管理運営を考えると、やはりハマナス試食会、ハマナス植樹会のみでなく、はまなすの丘公園で景観保全作業を行っているように、この再生園においても圃場を整備する取り組みも行っていかなければならないと考えております。

【本間】

現状では、市だけではどうにもならない状況です。観察園のほうでなんとか臨時職員さん1人で対応できると思いますが、7000㎡という広大な敷地を1人2人というわけにはいかないと思いますので、それについては、ボランティアの皆さんのご協力を頂きながらやっていくしかないと思います。

サポーターにつきましても、今年度55個人・団体が登録されていますが、今後とも輪を広げつつ移植のみならず管理も含めて行っていきたいと思っています。

【北條】

私は案内人として登録をしているのですが、こちらにも情報を入れて頂ければ、自宅も近いので、センターのお手伝いを行うこともできますので、センターの中で今必要なボランティア情報を広く掲示していただければ、可能な限りお手伝いいたします。また、ものによっては近所の方が詳しいこともありますので、案内人ではありませんが、近所の方にも声をかけることができますので、よろしく願いいたします。

【本間】

確かに年度初めに確定していた事業につきましては、広く情報発信をしていますが、その都度についてはお声をかけてなかったこともありますので、反省しなければなりません。

【北條】

センターに伝言板ではないですが、そういったものがあれば分かりやすいと思います。

【松島】

貴重な意見をありがとうございます。情報をどうマネジメントしていくかはとても重要なことになります。

他にございませんか。

【安田】

再生園のランドデザインの中に収穫ゾーンの中に栽培と自生ゾーンが設けられていますが、定期観察の会の中には、自然のままにしていきたいとおっしゃる方もいますので、収穫という言葉は何か他の言葉に変更できませんでしょうか。

【松島】

用途として収穫も行うということで、収穫を前面に出すのではなく、単に栽培ゾーンと自生ゾーンにすればいいのではないのでしょうか。

あくまでも収穫ベースではなく、栽培をして花を楽しみ、ハマナス再生園づくりに関わって頂きたいという入口として位置づけ楽しみの一つとして収穫もあるイメージでよろしいかと思います。

他にございませんでしょうか。

では、その他の案件に移りたいと思います。

### 3. その他

【事務局】

その他説明（保護センター運営アウトソーシングについて）

【松島】

ご意見ご質問はございませんでしょうか。

【荒井】

施設管理に対する指定管理であったり、委託という話になりますと、一般的な市民活動の観点からいきますと、行政が行っているよりも、その道の専門家である団体に任せの方が効率がいいという考えになると思います。ですので、今回の場合、受け皿の方にビルメンテナンスの専門家、掃除の専門家がいらっしゃるならば、指定管理で受けてもいいかと思います。もしそうでないならば、専門分野だけを委託するというような、今のようなお話しにもありましたようにソフト部分のみ委託し、ビルメンテナンスに関しては無理せず、一番効率的な方法かと思います。

【本間】

指定管理者になりますと、公募になり、今まで石狩浜で活動をしていない一企業が手を挙げてくるとお金で勝負になりますので、当初の目的は全く達成できないことになります。

【松島】

今の想定されている委託形態ですと、例えば先ほどのHPの維持管理も含めての委託になりますか。

【本間】

そうなります。

【松島】

一つお願いしたいと思いますが、まわりで何かしたいといったリソースは最近みえてきてますが、それをどう繋げていくかといったマネジメントの部分はまだ不足しているところかと思いますが、その辺りも含めてアウトソーシングしていければより効率的な形になるかなという印象があります。

その辺りは荒井さんにもお聞きしたいと思います。

【荒井】

私たちは国立公園の管理委託を受けていますが、施設運営ではなく現場運営を行っており、元々はゴミ拾いとロープ張り予算の委託でした。そこにどうせゴミ拾いでロー

プ張りをするならば、その時に集めた情報を発信しようではないかと行っており、効率化のポイントですが、あるのは情報と活動と人材のその二次利用をどうするかということもいつも考えています。市としては、これだけで委託したが、それ以外のこんな活動が生まれているというのが出てくれば、結果としては行政コストを下げているねと言うことができるかも知れません。ただ、これはとても難しく、受け側の体制がきちんと整っていないといけないということと、行政と受け側の役割分担がしっかりと明確になっている必要があります。また一番大切なのは、受け側の内部で私たち請け負うことができるという共営認識がしっかりとないといけないと思います。

【本間】

まさにその部分が民間の創意工夫に期待しているところで、なかなか市のみではできないこともあるので、国立公園などのように環境省が設置し、地元委託しているという所もいくつかありますので、そういったところをしっかりと調査し、良いところを取り入れていきたいと思っています。

【荒井】

実際問題は、これを行うにはみんなで積み上げるような練習が必要であり、だめならまたやり直そうといったことが必要であると感じています。最近はこれに尽きるなと思っています。

【松島】

今の計画だと5年間を練習期間と思い、実際に具体的にやってみると言う話では今既に動いているものもありますので、そういうものを動かしながら、課題を見つけいくことによって委託形式も可能になるのではないかと思います。

【本間】

最初からうまくいくとは思いません。新しい施設を建てて民間委託したところをいくつか見っていますが、ボランティアが来るかどうか分からない状況も多くありますので、松島先生がおっしゃったように、少しずつ動かしながらもよろしいでしょうし、課題も結構出てきていますので、その辺りをひとつずつ整理していくのもいいかと思っています。

【安田】

ファンクラブとしても意識としてはできる場所では、関わってきたいと思っていますが、具体的な計画を求めていかなければならないと思いますが。

【本間】

まずは、その仕組みづくりを運営委員会で詰めていければと思いますが、やりながらと言いましても、まとまらず拡がっていくと思いますので、委託と言いましても、決まりごとは決めなければならず、二次的なものにつきましては自由になります。骨格についてをきちんとご議論いただければと思います。

ここでまずは方針の様なものを決めて行きたいと思いますので、今年度はあと2回程ではございますが、その間お気づきの点がありましたら、事務局までご連絡いただければと思います。

【松島】

具体的には、次回、たたき台の様なものを示して頂き、それについて検討していくことになりますか。

【本間】

はいそのように計画しております。先ほど安田さんがおっしゃりました具体的な事につきましては、来年度以降検討して行きたいと思います。

【内藤】

去年までこういった話をする中で、受け皿としてファンクラブはそういうことをイメージしながらきましたが、果たしてイコール、ファンクラブがいいのかそれとも、あるいはファンクラブのメンバーがニアリーイコールでも、他からも入って別の運営団体で行うのが適切なのかは、昨年度では結論が出ませんでした。

【本間】

私もこれを作りながら、受け皿の部分にこちらから指定するわけにもいかないので、市民団体等の「等」とつけたのはそう意味もあり、受け側としてどうなのかは何とも言えないところで、みなさんのお話しをお聞きしたかったところです。

【北條】

私がイメージしていたのは、100%ファンクラブが請け負っていくのではなく、ゆかりのある人などが加わって運営していくのかと思いました。

専門的な知識を持たれている団体も大切ですが、他団体を含め、子供向けなどに精通している方も入って頂くことで硬さがとれ、より掘がりを見ることができないかと思っています。

【原田】

高齢であるため中心になっていくかどうかは何ともいえませんが、団体に入っても必ずしも毎回活動できるとは限りませんので、お手伝いできる人は必ずいますので、団体も含め何か登録制にし、イベント等がある時に参加できる横のつながりがあるといいなと思います。

【松島】

一つのコメントとなりますが、今日の話の流れの中で、ファンクラブやガイドボランティアなどさまざまな団体で色々な活動をされているが、それが、必ずしも連携がとれていたとは言えず、今必要なのはそれをアレンジし横をつないでくれる人材育成が必要であり、やり方はいくつかあると思いますが、それができればリソースも多くありますので、上手くできそうなのかなと思います。

【荒井】

体制仕組み的には、市役所から市民団体に委託する時、一番大切なのは、事務局運営委託であり、施設の運営を任せるとその施設のキャスティングボードを握ったような気持ちになりますが、一番下で市民を支える事務局をお願いしているのだよということがとても重要です。

そうすると、委託団体がすることは、例えば施設運営会議を開きます、運営会議には利用者は入ってください、そこで毎月会議を開きますので、今後の運営方針を相談させてください、その会議結果につきましては事務局で纏めて、いつどこで何をしたらいいかについて改めて提案させていただきます。といった内容が委託業務のコアになる部分になると思います。

もしそれを仕様書で縛るのであれば、運営会議を開くなどといった文言を入れるやり方になるのかもしれませんが。会議に何処まで決定権を持たせていくかについても、複数の思いのある団体がその施設に入っていくなら整理する必要があるかと思っています。

【北條】

土台作りの時に、ファンクラブが中心になっていくのもいいですが、センターに関わる色々な人から意見を聞くのも大切かもしれません。

【安田】

ファンクラブができる前から活動し、保護センターを支えている定期観察の会などの意見を聞く場があってもいいのではないのでしょうか。

【北條】

今この運営委員会で広めて話をするのができないこともありますので、タイミングをみて今年度がだめならば来年度以降はなしが進んで煮詰まってきてから話をお聞きするのも大事かもしれません。

【本間】

今回をきっかけとし、新たな組織を作るのか、既存の団体が集まったファンクラブをコアとしていくのか、各団体の中でも考えて頂ければと思います。

【安田】

ファンクラブに私は確かに参加していますが、定期観察の会に関して言えば、他のメンバーは定期観察の会を代表して参加しているとは他のメンバーは思っていないと思います。

【松島】

おっしゃるとおりで、各団体の全員が賛同してファンクラブに参加しているのではないので、その辺りは難しいところだと思います。

【石山】

去年から考えていますが、ファンクラブだけで請け負うのは難しいかと思います。

ファンクラブのメンバーが入った事務局を作ってそこに各団体が色々関わっていく、管理運営というのをファンクラブのイベントを行いながらやれるのかなという不安もありますし、そこで、例えば事務的な事を専門に行ってくれるような、それに特化した方がいたほうがいいのではないかと思います

【本間】

受け皿は事務局としては、これと決まったものとして意識しておらず、運営協議会を作って運営していくことも含め、今回の提案をもとに各団体さんの中で揉んで頂ければと思います。

【松島】

他にありませんでしょうか。

では次回はいつにしましょうか。

【本間】

各イベントがひと段落した秋頃に行いたいと思います。

【松島】

了解しました。

では本日の会議を終了したいと思います。

長時間お疲れ様でした。

議事録を確認しました。  
平成26年8月1日  
石狩海浜植物保護センター  
運営委員会会長 松島 肇